

次年度に向けての取り組み目標と具体的な取り組み方策

令和8年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[1] 教育活動 (教務)	・新成績評価方法のさらなる改善と定着 ・ICT（プロジェクター等）を活用した、より先進的で効果的な教育の推進 ・教務部内の業務負担の均等化	・生徒の実態に合わせ、卒業後の進路決定に資するような成績評価の見直し、円滑な運用を進める。 ・全教室に設置されたプロジェクターの効果的な使用例を教科間で共有し、授業の質を向上させる。 ・進捗管理を継続しつつ、特定の個人に負担が偏らない役割分担を再構築する。 ・教員のシフト制が適切に運用できるよう、業務が人に付かないようにする。	・進路指導部とも協力し、1年間かけて実施する。 ・夏までの状況を教員研修で振り返り、その後の計画を立てる。 ・1年間をかけて実施する。
[2] 教科指導 (各教科)	・授業の質の転換 ・新任教員への授業面でのサポート強化	・基礎学力の定着を図る Unit Test を軸として、得た知識を活用する Performance Test、学びをより深めるまとめ課題で、各教科の学習内容を深められるような授業を展開する。 ・基礎学力の定着に向け、学年や教科との連携・協力を強化する。	年度当初から、毎週の教科主任会議、各教科会議を通じて具体的なノウハウの共有、研究を行う。
[3] 学校生活への配慮 (生徒指導)	・情報共有の迅速化 ・学年との連携 ・いじめ防止教育の実施 ・校則、指定品の検討	・生徒指導の状況、不登校生徒の状況を把握し、対応を検討する。 ・生活アンケートの結果を迅速に学年主任や担任へフィードバックし、早期対応につなげる。 ・生徒指導部会を定期的に開催し、研修等で得た知見や生徒情報を組織内で共有する。 ・前期課程を中心として、教育講座等で実施する。 ・生徒会と連携し、校則と指定品について検討する。	教育講座は行事予定に合わせて計画、実施する。それ以外は年間を通じて実施する。
[4] 生徒会・部活動	・活動内容を明確にする。 ・生徒の自主性を尊重しつつ、教員が適切に支援できる指導環境の構築 ・行事運営（Sports Day や Open House 等）の安定化と質のさらなる向上	・生徒主導で活動内容を検討し、実施するシステムを構築する。 ・すべての委員会で積極的に活動できるよう、生徒会活動を活性化させる。 ・教員間の業務引き継ぎ体制を強化し、行事運営のノウハウを組織的に蓄積する。	年度当初から実施し、半期で成果を検証、修正を行う。

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[5] 進路指導	・前期課程における体系的な進路指導の構築と学年連携の強化 ・進路実現に至るまでの「プロセス」を重視した、発達段階に応じた指導の展開 ・難関大学への合格者を増やす。	・「卒業生講演会」と「大学・学問ディスカバリーフォーラム」を軸に、低学年からの視野拡大を図る。 ・後期課程ではこれまでの指導クオリティを維持・継承し、適切な時期に適切な指導リソースを配置する。 ・一般選抜での受験者を増やすための進路指導を実践する。 ・全員で受験する模擬試験の実施回数を削減する一方で、希望者選択制の模擬試験の受験を促す。	・1年間をかけて実施する。 ・年度当初に計画を立てて実施する。その成果を年度末に検証する。
[6] 保健・衛生	・適切な健康診断の実施 ・保健室利用者の把握 ・健康管理の支援と教育相談の活用	・健康を維持するために、体力測定や健康診断の結果を踏まえた体力向上のための掲示や情報提供を行う。 ・保健室利用の生徒を全校で共有し、体調不良や遅刻・早退に対して迅速な対応を図っている。 ・家庭環境、友人関係の構築・変化、SNS、インターネットによる情報など多方面から心に影響を受ける生徒の実情を見据えて、教育相談だけでなく教員が子どもの姿を捉えられるよう情報を共有していく。	・年度当初から取り組む。 ・年間を通じて行う。 ・いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、生活アンケートを定期的に実施する。
[7] 図書	・進路、進学指導に資する資料の用意 ・各教科と連携した図書室利用の促進 ・研修に向けた関連資料や視聴覚資料の充実	・大学入試の過去問集や、広く社会や世界に目を向けられるような教養あふれる図書を充実させ、生徒が進路を前向きに考えられるような環境を用意する。 ・ゼミ活動や探究活動の際に活用しやすい図書やデータベースを充実させる。	・新規の購入については、時期や出版状況を確認しながら順次取り組んでいく。
[8] 広報	・広報活動の充実 ・校内掲示の改善 ・小学校、塾との関係性強化	・SNSでのタイムリーな情報公開を進めるとともに、データを分析した上で効果的な広報活動を行い、入試関連行事への参加者を増やし、受験者数の増加につなげる。 ・統一感のある校内掲示を行うために、ガイドラインを作成し、適宜更新する。 ・小学校や塾への訪問機会を増やし、本校の教育活動と多彩な入試制度をアピールする。	・年間を通じて計画的に行い、各行事ごとに成果を検証する。

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[9] 管理運営	・教育方針の浸透 ・AI や新システムを活用した業務効率化と、教育の本筋との両立 ・各教員の資質・能力の向上 ・各教員のライフステージに応じた相互協力体制の構築	・校長の教育方針の理解を促進し、各教員が主体的に教育活動に取り組めるようにする。 ・システム構築を推奨しつつ、それが教育活動の質の向上に寄与しているかを検証する。 ・新任教員の教科指導力や生徒指導力の向上に向けてサポートはもとより、経験の多い教員についても社会情勢の変化を捉え、新たな教育への理解を深められるように研修する。外部研修会等にも参加し、各校の事例も参考にする。 ・育児や介護など、人生の各局面の困難を助け合い、持続的に働きやすい組織体制を構築する。	・年間を通じて計画的に行う。 ・教科会議，教科主任会議，教職員会議の機会です度当初から研修の機会を設ける。 ・学園の他校とも協力しながら具体策を年度当初から検討していく。
[10] 庶務	・時代の変化をとらえた式典や保護者会の運営 ・同窓会活動の再構築	・コロナ禍が明けて通常に戻しながら，コロナ禍に得た新しい形態の残すべき部分を残しながら運営する。 ・同窓会役員の改選や定期的な役員会の実施を通して，同窓会活動の充実化を図る。	各行事の日程に合わせて計画，実施する。